

カペラステークス

芝スタートに加え、ゴール前は坂。

ハイペースで流れて直線の坂でスピード馬が止まるパターンも多く、ダート短距離のなかでは芝短距離の要素が問われやすいレース。

血統も米国ダート血統よりも芝短距離型血統が走りやすい。

2018年11番人気2着のサイタスリーレッドは父がサンデー系(大系統)で母父が米国型。

2019年7番人気3着のシュウジは父がサンデー系(大系統)で母父がミスプロ系(大系統)。

サイタスリーレッドは父がダノンシャンティ。シュウジは父がキンシャサノキセキ。どちらもPサンデー系。サンデー系のなかでは短距離指向のタイプ。

2017年8番人気2着のスノードラゴンは芝1200mのG1勝ち馬で父が欧州型のアドマイヤコジーン。母父がサンデー系(大系統)。

父欧州型の芝短距離実績ある種牡馬も走りやすい。

スノードラゴン以外にもキタサンミカヅキが2018年に3着。レッドルゼルが2020年に2着。キタサンミカヅキの父キングハイロー、レッドルゼルの父ロードカナロアともに芝1200mのG1勝ち馬。

昨年の勝ち馬ダンシングプリンスは父米国型だが、父のパドトロワは芝1200mのG1連対馬。母は芝1200mのG1馬デュランダルの子。芝短距離指向が強い。

過去5年の4番人気以下で馬券になったのは6頭。

全て 5-8 枠。人気薄で恵まれるのは外枠

本命はオーヴァーネクサス。

父サンデー系で母父ミスプロ系の組み合わせ。
母父はシーキングザゴールド。芝のスプリンターズ S で
産駒が 1、2 着したこともある名血。
芝短距離指向の適性問われるレース歓迎。

阪神ジュベナイルフィリーズ

他の 2 歳戦同様、米国型や芝短距離指向の強い血を持つ馬が走りやすい。

スプリント血統や米国血統は
2 歳戦で仕上がるように長年配合されているため。

昨年 1 着のサークルオブライフは
母母父が芝 1200m の G1 勝ち馬タイキシャトル。

8 番人気 2 着のラブリエユアアイズは母母父がデインヒルの系統。

3 着のウォーラーナビレラは母父が芝 1200m の G1 馬キングヘイロー。

2019 年の勝ち馬レシステンシアも母父がデインヒルの系統。

父か母父がフレンチデピュティの系統も相性が良い。

2017 年にリリーノーブルが 2 着。
2018 年にクロノジェネシスが 2 着、
ビーチサンバが 3 着。2020 年にソダシが 1 着。

人気で消えるのは道中で速いペース経験のない馬。

逆に 1000 メートル 59 秒台の流れを経験して、
34 秒前半の上がりを出せる裏付けのある馬は
なだれ込める可能性が上がります。

昨年の 1-3 着馬も道中経験と上がりの裏付けがある馬

本命はリバティア일랜드。

母ヤンキーローズは 2 歳戦の
世界最高賞金を誇る芝 1200m のゴールデンスリッパーS で 2 着。

その後、中 1 週で 1400mG1 のサイヤープロデュース S を優勝。

2 歳で仕上がる体力とスプリント能力は世界最高レベルの母。

父ドゥラメンテの産駒には
同コースで行われる桜花賞勝ち馬スターズオンアース。

阪神芝 G1 を 3 勝しているタイトルホルダーもドゥラメンテ産駒。

阪神芝 G1 でも実績を残す父と
世界最高峰の 2 歳戦で強かった母で配合された馬。

管理するのは中内田調教師。
管理馬に当レース勝ち馬のダノンファンタジー。
同じく阪神 2 歳マイル G1 勝ち馬のグレナディアガーズ、
ダノンプレミアムの管理調教師。

相手妙味に 4 アロマディローサ、6 ミスヨコハマ。

いずれも父はスプリント指向で当レース実績があるPサンデー系。
いずれも速いペース経験と速い上がり実績を持ち合わせた馬。

ウンブライルも母父ファルブラヴは
オーストラリアで繁栄するフェアリーキングの系統。